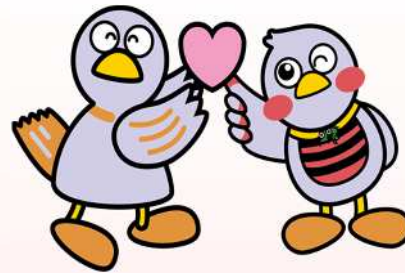


事業の目的

せきずいせいきんいしゆくしょう じゅうしょうふく
脊髄性筋萎縮症 (SMA) と重症複

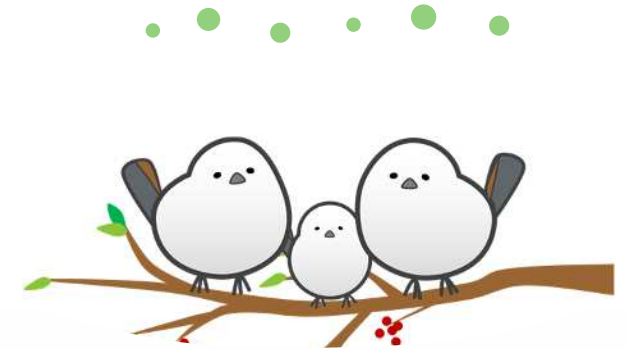
ごうめんえきふぜんしょう
合免疫不全症 (SCID) の2つの病気

について、新たに新生児マススクリー
ニング検査の対象とする実証を行い
ます。国の研究班と連携することで、
全国で生まれた赤ちゃんが新たな新
生児マススクリーニング検査を漏れ
なく受けられることを目指します。



埼玉県マスコット
コバトン&さいたまっち

新生児 マススクリーニング検査 に関する実証事業



うまれたばかりの赤ちゃん
が生まれつき重い病気にか
かっていないかを採血で調べ
る検査（新生児マススクリー
ニング検査）について、新た
に2つの病気を対象とする国
の実証事業がはじまりました。

せんてんせいいたいしやいじょうしょう

現在、先天性代謝異常症などの20種類の病
気について公費で新生児マススクリーニング検
査が行われ、早期発見・早期治療につながって
います。本事業では、以下の2つの病気を新たに
追加します。
※追加の2疾患についても公費で実施されます。

病気の早期発見・早期治療
につなげるため、できるだけ
多くの赤ちゃんに検査を受
けることをお勧めします。

せきずいせいきんいしゆくしょう

① 脊髄性筋萎縮症 (SMA)

全身の筋力低下が進行し、治療しないと乳児期に亡くなることもある病気です。大多数は
乳児期に発症します。出生2万人あたり1人の割合でSMAをもつ赤ちゃんが生まれるとさ
れています。

かくさんちりょうやく

いでんしちりょう

核酸治療薬や、遺伝子治療を用いて、有効な治療を行う事が可能です。

詳しくは、ホームページをご覧ください。

(<https://www.sma-rt.org/sma.html>)



じゅうしょうふくごうめんえきふぜんしょう

② 重症複合免疫不全症 (SCID)

乳幼児期から感染症を繰り返し、治療しないと乳児期に亡くなることもある病気で、
生まれつきの免疫不全症の中で最も重症な病気です。出生5万人あたり1人の割合で
SCIDをもつ赤ちゃんが生まれるとされています。

免疫グロブリンの注射や、抗菌薬などで感染症を予防しつつ、臍帯血移植や骨髄移植
で根治することが可能です。

詳しくは、ホームページをご覧ください。

(<https://pid-nbs.jp/scid.html>)

さいたいけつしよく こつずいしよく



検査の方法

生後5日目頃の赤ちゃんの足
の裏から採取したごく少量の血
液をろ紙にしみこませて検査します。

現在の20種類の病気の検査と同じ
採血方法です。赤ちゃんに大きな負
担はありません。

検査の結果

- ・陽性（疾患の可能性がある）
- ・陰性（疾患の可能性が低い）
- ・再検査
で判定されます。

この検査で陽性となった場合

採血等での精密検査や根治治療
が必要となることがあります。出
生された医療機関等より診断・治
療ができる施設の医師を御紹介し
ます。また、精密検査結果の追跡
調査も行います。

お問い合わせ

埼玉県 保健医療部 健康長寿課

〒330-9301

さいたま市浦和区高砂3-15-1

TEL 048-830-3561